

四季報 草原灌漑

草原における環境保全型節水灌漑モデル事業 ニュースレター

Vol.3

2008年7月発行

ニュースレターVol3 発行

本ニュースレターは「草原における環境保全型節水灌漑モデル事業」で行った活動について、広く関係者の皆様にお知らせすることを目的として、4半期に一回発行しています。

このプロジェクトは2007年6月1日より開始され、主要なC/Pとして中国灌漑排水発展センター（水利部所管）及び、内モンゴル自治区杭錦旗、新疆ウイグル自治区木垒県の現地サイトにて活動しています。

2008年度プロジェクトの活動計画

本プロジェクトでは今年度の活動として、各項目に対して以下のような活動を計画しています。

「整備計画」策定マニュアルの作成

「整備計画」策定マニュアルはPDM上の重要な目標ですが、昨年度立ち上げたマニュアル編成委員会によって、マニュアルの方向性を決定し、その下に設置した作業部会において大綱を作成しました。現在その大綱に基づき、各部署で第一次稿を作成することとなっており、2008年度末には第2回の作業部会にはその一次稿を議論する予定としています。

モデル地区において「整備計画」の効果が検証される

内モンゴル自治区杭錦旗及び新疆ウイグル自治区木垒県において試験圃場を設置し、牧民にも適用可能な節水技術について検証を行うこととしています。具体的にはこれまで土水路による灌漑をおこなっていた地域に対して管水路による灌漑を導入したり、適切な灌漑時間の検証などを試験することとしています。これらの結果は今後取りまとめる「整備計画」策定マニュアルや研修コンテンツに反映させていく予定です。

研修コンテンツの完成及び研修の開始

今後、中国の草原地域において人工草地の建設を進めるためには、「整備計画策定マニュアル」の整備だけでなく、そのマニュアルを利用し人工草地の建設を進めていく技術者の育成が必要です。

昨年度から作成している研修コンテンツに合わせて、一般の人にも理解できるような小冊子や草原について説明を加えたカレンダー等を作成し、広く配布することとしています。

また、中国で行われている水利部、水利庁主催の研修会に出席し、プロジェクトの取組や成果の発表及び研修コンテンツ等の配布を行っていく予定です。

○最近の活動内容・出来事

実証試験実施の準備（4月～5月）

今年から実証試験を開始することから、中国側と実証試験の内容や段取り等について調整を行いました。

内モンゴル自治区杭錦旗モデルサイトにおける実証試験圃場の確認（5月6日～9日）



内モンゴル自治区杭錦旗の牧民の圃場において、2008年度の供与機材により節水灌漑施設を整備しました。全部で9牧民の圃場で、合計約1000ムーで実証試験を行うこととしています。特に、そのうち各牧民の圃場10ムー程度において、給水時間の変動や灌水時間の変動による、収穫量の変化や、従来の土水路から、パイプラインによる給水方式の改良による送水効率の変動等を測定することとしています。また、実際の灌漑および実証試験をおこなう牧民に対して試験内容を理解するよう研修を実施しました。



一方、中国側との調整において改めて課題となった部分もあります。昨年度から試験圃場の図面を作成することを指示していましたが、杭錦旗水務局の担当者はその重要性を十分に理解しておらず、詳細な図面の作成がなされていませんでした。そのため、専門家が現地で簡単な測量を行うとともに、次回までに作成することを指示すると共に、次回の現地調査の際には専門家も一緒に図面の確認を行おうこととしました。

（左上：現地圃場、左下：牧民への研修）

四川省大地震に対して専門家から寄付を実施（5月15日）



5月12日に発生した四川省大地震はプロジェクトオフィスでも若干の揺れを感じると共に、水利部関係の施設にも大きな被害が出ているということで、対応への緊張感が感じられました。

灌漑排水発展センターでも地震被害に対する寄付の呼びかけがあり、チームからも専門家個人として寄付をおこないました。この取り組みは水利部内の広報誌にも記載されました。

新疆ウイグル自治区木垒県モデルサイトにおける実証試験圃場の確認（5月26～5月30日）



新疆ウイグル自治区木垒県の牧民の圃場において、2008年度の供与機材により節水灌漑施設を整備しました。全体で約1200ムーの圃場においてパイプラインとスプリンクラーを設置しました。特に、そのうち約50ムーにおいて、給水時間の変動やスプリンクラー間隔を変えることなどによる収穫量の変化を測定する実験を行うこととしています。

また、本地区は上流のダムから開水路により送水されてきていますが、建設から10年以上が経過しており、さまざまな場所で漏水や施設の劣化が発生しているため、節水にはこれらの施設の改修も重要な意味を持っていると考えられます。中国側も同様の認識であり、今年度の予算で約5kmの区間（全体は約17km）において補修工事を実施する予定としています。プロジェクトでもどのような改修になるかについて、資料の提供を求めており、今後のマニュアル作成に反映される可能性もあります。

さらに、広報活動の一環として、地元の小中学校にプロジェクトや草原保護についての出前学習をやることを提案しましたが、中国側もその考え方には賛成しており、今後具体的に準備を進めることとしています。これらの取り組みは今後の研修テキストとしても活用することが可能と考えています。

用することが可能と考えています。

さらに、新疆ウイグル自治区水利庁において新疆ウイグル自治区が実施中の草原灌漑プロジェクトの資料の収集をおこないました。（左上：現地圃場、左下：上流の水路。分水工において漏水が発生）



内モンゴル自治区杭錦旗モデルサイトにおける実証試験圃場の確認（6月18日～20日）



内モンゴル自治区杭錦旗で実施している現地実証試験について、5月より灌漑が開始されたことにもない、現地の実証試験の状況を確認しました。今回の実証試験には9牧民が参加していますが、試験内容を十分に理解していない牧民がいることが判明しました。

牧民を指導すべき水務局担当者は前回打ち合わせ時に牧民が十分に理解したものと判断していたとのことでしたが実証試験の結果が不正確であると「整備計画」策定マニュアルの作成にも影響がことから、今後の実証試験の管理体制については水務局が主体的に行うよう、要請を行いました。

（上：ホース灌漑実施商況）

国内支援委員会の実施（6月4日）

JICA 本部及び中国事務所において、本プロジェクトおよび新疆ウイグル自治区定住化プロジェクト、山西省雁門関プロジェクトの3プロジェクト合同で国内支援委員会が開催されました。

本プロジェクトからは現在までの取り組み状況の報告を行い、各委員からは実証試験等についてのコメントをいただきました。

各実証圃場の第1回試験データの回収（6月）

5月より開始された実証試験の第1回目のデータが各水利局より送付されました。内モンゴル自治区杭錦旗の圃場は十分な記載がなされていない牧民もあり、一部様式を修正し次回のデータ収集に問題がないように指示を行いました。一方、新疆ウイグル自治区木垒県については様式通りのデータが記載されており、十分な管理がなされていました。



新疆ウイグル自治区の試験圃場

編集後記：

2008年度から現地実証試験を開始しました。実証試験は実質的に牧民が営農している圃場を利用して行いますが、想像していた以上に牧民との付き合いには根気を要しています。当プロジェクトの目標は今後の人工草地建設を行っていく上で行政レベルの人間が使えるような技術マニュアルの策定ですが、結局その末端にいる牧民が利用できなければ意味がないため、如何に現地でそれらの施設・技術が適応できるかについて頭を悩ませているところです。

プロジェクト所在地

北京市宣武区広安門南街 60 号 榮寧園 3 号楼 中国灌漑排水発展中心日本専家室

Tel : +86-10-6320-3380、FAX : +86-10-6320-3376 e-mail : taka316318@hotmail.co.jp

担当：東 崇史